

## 新そば求め村内地区巡り ～ひがしどおり新そば街道まつり～



新そばを求め大勢の来場者

10月6日(土)～7日(日)の2日間、「ひがしどおり新そば街道まつり」が開催され、村内6地区(大利、目名、鹿橋、蒲野沢、砂子又、小田野沢)の会場は、新そばを求め大勢の来場者でにぎわいました。このイベントは、東通村で収穫されたばかりの新そばを使用し、各地区の会場で腕によりをかけて作った、風味豊かな、かけそばやざるそばを提供する催しです。



美味しそうにそばの味を楽しむご家族

初日は、あいにくの雨でしたが、各会場には村内からのお客様の他、近隣のむつ市や遠くは青森市などの村外からお越しの方も多数見られ、会場によってはそばを食べるまでに、約40分から1時間待ちになるなど、どの会場も大盛況となっていました。新そば街道まつりの楽しみは、そばだけではなく、その土地で収穫された、みょうが、ササゲ、ニンニク等の新鮮な野菜や、カシス等のジャム、そばもち、南蛮みそ、醤油・レモン・ブルーベリーに味付けされた漬物や手芸品等、各会場ごとにユニークなお土産が販売されており、中には午前中で売切れてしまいう人気商品もありました。来年の5月には、「新緑そば街道まつり」の開催が予定されています。皆さん是非またお越しください。

## 「サケ漁況の見通しに係る研修会」を開催！ ～東通村漁業連合研究会～



講師の松谷研究員によるサケ漁況の見通しの解説

9月21日(金)、村体育館において村漁業連合研究会(会長 濱端元一)が、「サケ漁況の見通し」についての研修会を開催し、地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所研究員 松谷紀明氏より講演をしていただきました。サケの回帰予測は、過去の河川回帰尾数、沿岸回帰尾数と年齢構成、海況予報等から予測されますが、今年の太平洋沿岸での河川回帰尾数は13万尾(昨年10万尾)、沿岸回帰尾数は123万尾(昨年94万尾)の見込みであり、サケ漁の見通しは「昨年を上回る」と予測されることでした。当村のサケの水揚量は、平成2年から9年までは、4,000トンから5,000トンと県内でも有数の水揚げを誇っていましたが、平成10年以降は2,000トン前後、近年では1,000トン前後、昨年932トンと低調だったことから、会員は講師の説明に熱心に耳を傾けていました。

## 河川におけるサケの採捕禁止について

許可を受けた漁業関係者以外の方がサケを捕ることは、水産資源保護法及び青森県内水面漁業調整規則により、全ての川で全面禁止となっています。

ルールに違反して一般の方がサケを捕ると法律及び規則により罰せられますので、ご注意願います。

《問合せ先》 つくり育てる農林水産課 ☎27-2111 (内線111)  
むつ水産事務所水産課 ☎22-9732